

遊びは仕事、仕事は遊び
 遊びは仕事、仕事は遊び
 仕事は遊び、遊びは仕事
 仕事は遊び、遊びは仕事
 遊びは仕事、仕事は遊び
 遊びは仕事、仕事は遊び

大浦総合研究所

大浦勇三 著

続 続
 ビジネス梁塵秘抄（九）

目次

はじめに

第一部

「遊」

遊びをせんとや生れけん

第二部

「献」

仕事をせんとや生れけん

第三部

「学」

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄(りょうじんひしょう)」という歌謡集が編まれました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁(はり)の塵(ちり)も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七七七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

遊びをせんとや生まれけむ、戯れせんとや生まれけん、

遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ。

岩波文庫版)

が有名です。

二〇一二年から二〇一四年の三年間、「ビジネス梁塵秘抄(一)〜(十)」全二〇巻(九〇〇ページ・二七〇〇文)を刊行させていただきました。この三年間で日本はもとより、世界の景色は大きく変わりました。日米欧を中心に、それまで国や地域を支えていたさまざまなインフラ・制度の劣化が散見されるようになっていきます。財政の悪化をはじめとして、改革のためのルール・規制が複雑化し、身動きがとれなくなってきたこと、国民一人ひとりが能動的・自覚的に課題を解決して自律するという意識が衰退し、国や周囲への依存意識が強くなっていること、などが指摘されています。

日本人は三・一一で、あり得ないことも起こること・見たくないものは観えないこと。すべては変わることを経験しました。一方、世界では二〇四五年問題が浮上、一台一〇〇〇ドル程度のPCの情報処理能力が全人類の能力を超えるとの予測も台頭しています。人工知能が人間の意思を介さずに仕事をする時代の予感。人工知能を敵ではなくパートナーとして連携しながら、人間の思考力・発想力を強靱化すべきという課題。人工知能は舗装道路では強力でも、石ころだらけの砂利道では人智の出番も多いはず。世界が合理的・効率的な方向に動き、その大きな流れに太刀打ちできない以上、やりたいこと・やれること・やるべきことの重なる領域を徐々に広げながら前進するしかありません。ドラッカーだけでなく、ピカソからアインシュタインまでを内包するのが二一世紀の経営学。固有の文化・価値観を生かしたイノベーションには組織文化風土の深耕がものをいいそうです。

本書は、「ビジネス梁塵秘抄」に続き、「遊(遊び)」「献(仕事)」「学(学び)」に対す

東京・神楽坂にて

大浦 勇三



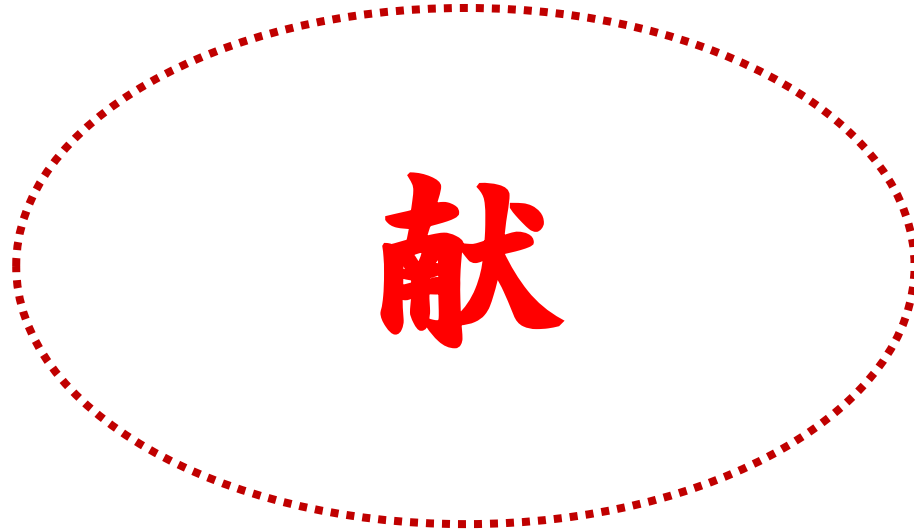
遊びをせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粹

● 論理矛盾は頻繁 必要に応じて直観を働かせる
人間の知識は 必ずしも正確無比とは限らない
ケンカ 正しい方でなくえげつないほうが勝つ
素手でケンカ すごくいい経験、と西原理恵子

● 株式市場は 小回り三ヶ月 大回り三年
時間はどんどん動く 時間は生きている
幸福&絶望 そのままであることはない
人間 マイナスからずいぶん鍛えられる

● 真実を書くには ウソが必要だ
失敗するのはいただきでもある
歌詞 三回〜五回は手を入れる
作詞の数四〇〇〇曲、と秋元康



仕事をせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粹

●規則さえ守っていればいいというものではない
規則そのものが間違っていることもありうる
人間は見たくないものは見えない 教訓が風化
定点観測を持続することが大事、と畑村洋太郎

●中国人 喧嘩を仲良くなる機会と捉え 喧嘩の後始末を考えて喧嘩
日本人 一回喧嘩すると仲直りできない 喧嘩しないことが前提に
日・中 見た目が同じで、漢字や豆腐や儒教などの共通項は数多い
それが同じはずだという潜在意識を招いている、と経営者・宋文洲

●教科書なんていらぬ 大切なのは 人の話に耳を傾けること
今日かっこいいもの 明日はかっこ悪くなる 無意識の刺激を
デジタルで 頻繁に起こることが 芸術の世界では起こらない
物理と数学 理解しないと世の中はわからない、と大村益次郎



学びをせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粹

● 本はゆっくり 心の深くに届くメディア
バブルの崩壊 経験者が誰もいなくなる
富士山が美しいのは 頂には氷・底に火
その両極を持っているから、と草野心平

● すべての人は生まれつき 知ることを欲する
パリコレ 数千万円の経費 トラブルは頻繁
トラブルを面白がる パリで評価されるには
ショーを続ける 休んだらアウト、と森英恵

● 貧しいが貧しさの感覚はない みな貧しいから
貧しい生活でも 暗い気持ちでいた訳ではない
今のやっっていることの延長では ものを見ない
吾亦可耕 私もまた何かをつくる、と篠田桃紅

大浦勇三（おおoura ゆうぞう）

oura@office.emaill.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.ne.jp/asahi/oura/oura-research-institute>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。

主な著書には、

- ・「ビジネス梁塵秘抄（一）～（十）」（全十巻）（大浦総合研究所）
 - ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」（清話会）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

続・ビジネス梁塵秘抄（九）「抜粋」 著者 大浦勇三

二〇一九年六月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒二七〇・〇〇三四 松戸市新松戸七・五四二

◎大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。